

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600325		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム福寿園		
所在地	長崎県五島市吉久木町907-1		
自己評価作成日	令和 3年 6月 13日	評価結果市町村受理日	令和3年8月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 3年 7月 7日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は窓が多く広々として開放感があります。  
「家庭的な雰囲気の中で、その人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り気配り心配りで心に寄り添うケアを提供します」という理念の下、本人のペースを大事にしてゆったりと穏やかな雰囲気の中、生活できるよう支援しています。毎月研修を行い必要な知識を得られるように取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人他施設と同敷地内にあり、自然に囲まれた環境にある。季節ごとの花が楽しめる中庭を囲むリビングや廊下は開放感があり、掃除や手入れの行き届いた室内は清潔感がある。新型コロナ禍により、面会制限や地域行事の中止等続く中、事業所では入居者と家族の繋がりが絶えないようガラス越しでの面会や受診時に病院で会ったり、納涼祭やレクリエーション等工夫し、入居者の喜ぶことや楽しみごとを支援している。介護計画書は、本人を取り巻く家族や職員、医師や看護師、理学療法士等多くの意見を取り入れ、本人と家族への丁寧な意向の聞き取りを反映したものとなっている。毎月行うスタッフ会議、身体拘束廃止委員会、消防自主訓練では、全職員で各入居者の状態を把握し、支援方法について話し合い、検討していることが記録から窺える。入居者の表情は穏やかであり、職員はさりげなく入居者に寄り添い、チームワークよく、理念にある目配り気配り心配りを具現化している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中でその人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します」を理念として申し送りはじめに唱和している。	介護理念と介護目標を事業所内に掲示し、法人クレドと併せ職員は毎朝唱和している。職員は、人と接する際に自分がしてもらって嬉しいことや相手を思いやることを大切に行動している。入居者への声掛けやコミュニケーション、職員同士の連携等、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのため制限があった。	田植えの人達と挨拶や会話を交わしたり、農作物の差し入れがある等地域住民との交流がある。盆にはチャンココ踊りの来所があり、入居者と一緒に観覧している。新型コロナ禍により、恒例の保育園児や小学生との交流や納涼祭等が中止となっており、今後の交流再開が待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての研修を定期的に行って知識を深めたり再確認している。家族との会話の中や運営推進会議で学んだことを伝える機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナのため文書での伝達が多かった。開催できた時は運営推進委員等(地域住民・家族)の意見を取りいれている。	新型コロナ禍にて4回は書面会議、2回は構成メンバー参加の会議を実施している。現状報告の他、意見や情報交換を行っており、書面会議においては、議事内容の確認書を送付し、意見提案等をもらっている。スタッフ会議の議題、開花情報等は外出先の検討に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことがあれば、電話で確認し答えを頂いている。	申請書類等については事業所で準備し、法人本部が取りまとめて行政に提出している。家族からの問い合わせの仲介や制度上不明な点は担当課に尋ねている。また、年2回担当課職員が入居者を訪ねている。行政からの案内のある研修に職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束についての研修を行っている。施設でのケアについても身体拘束に該当しないか話している。	毎月全職員で身体拘束廃止委員会を実施しており、運営推進会議の中でも適正化委員会を開いている。言葉遣いを含め、何が拘束にあたるのかを確認している。声の大きさや口調の強さ等気になる際は管理者は個別に指導しており、職員同士が連携し、拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回研修を行っている。施設でのケアについても虐待に該当しないか話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で権利擁護について学んでいる。 また、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については利用約款、重要事項説明書を確実に説明し同意をいただいて署名・押印いただいている。 また、書類の整備・確認についても2名による確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等からの意見集約として個別に対応したり、意見箱の設置を行っている。	契約時に苦情窓口等を説明すると共に玄関には意見箱を設置している。新型コロナ禍で面会は難しいものの、利用料金の支払いに訪れる家族とは直接会話しており、入居者とは窓ガラス越しでの面会を支援している。遠方の家族とはこまめに電話し近況を伝え希望等を聞き取り、疑問点等には回答している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやスタッフ会議の場で意見を聞いている。 その意見を主任者会議で伝えることができる。	毎日のスタッフ会議では、職員が活発に意見を表明しており、意見を基に入居者の食事を使う自助具やコップ、トレーなど細かい提案を反映し、支援の質の向上に繋げている。職員の一時間の休憩を確保している他、応援スタッフの協力により希望休暇も取得しやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の状況を把握するとともに、業務の改善を行い、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の力量を把握し、研修を受ける機会の確保を図り、知識・技術の向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナで同業者との交流の機会は減ったものの、研修会を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	穏やかな態度で接し優しく笑顔で声をかけるようにこころがけている。 本人からの言葉を大切に受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に気になることや困っていること、要望がないか確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に聞き取りを行い本人や家族の必要とする支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜の皮むき・洗濯物たたみ・テーブル拭き等本人の「できること」を行ってもらい、意欲や生き甲斐を持てるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来園時や電話、手紙で本人の日頃の様子を伝えている。 家族からも話を聞き情報を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人で新聞や雑誌を購入したり、家族が本人の好物を持ってきたり、利用者の馴染みが途切れないよう支援している。	新型コロナ禍で家族は入室できないものの、窓ガラス越しの面会に加え、感染が収まっている時には玄関で少しの時間面会できるよう工夫している。仕事仲間や友人も窓ガラス越しの面会に訪れている。職員は入居者が住んでいた場所の近くまでドライブしたり、海や季節の花の見物に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がさりげなく間に入って、耳の遠い入居者との会話をサポートしている。 自分がかいた絵をプレゼントしたり、出来る事を手伝ったり、お互いに支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人・家族との関係を継続し、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に思いや暮らし方の希望、意向を聞き取りしている。 入居後も定期的に本人の希望と意向を確認している。	本人の生活歴は本人や家族から聞き取る他、事前に取得した情報を基に把握している。会話が苦手は入居者には一緒に作業しながら、自然な雰囲気や大切に意向を聴取するなど工夫しており、職員が知り得た情報を基に支援している。ただし、情報を集約する仕組みは確認できない。	職員が知り得た入居者の生活歴を、全職員が共有し支援に役立てるために、情報の集約方法について検討、工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞いている。 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌に記録を行い、申し送り、カンファレンス・モニタリングで情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に2回カンファレンスとモニタリングで意見を交換する場を持っている。 家族には電話や面会時に意見を聞いている。	毎月全職員でカンファレンスとモニタリングを行い、転倒リスクをチェックし統一したケアに繋げている。理学療法士等の意見を参考に長期6ヶ月、短期3ヶ月の目標を立てており、本人が楽しみながら生活リハビリに取り組める内容となっている。本人と家族への丁寧な意向の聞き取りを反映し、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表、排泄チェック表、水分チェック表など記録を行っている。 介護日誌にも支援した内容を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じてその時々で適切なサービスを受けられるように柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報誌の情報を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の意見を優先して、かかりつけ医を決定している。	本人・家族の意向に沿い、かかりつけ医を決定している。ケアマネージャーが通院支援しており、病院で家族と合流することもある。受診結果は、手紙や面会時に伝えており、変化があれば電話で報告している。職員は介護記録や申し送り等で共有している。緊急時は、法人医師と訪問看護師に指示を仰いでおり、職員は対応を理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師の訪問があり気づきを報告したり、相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーをできるだけ早く提出している。 早期退院できるように病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望を聞き、十分に話し合いを行い訪問看護や担当医、老健の医師の協力を得てチームで支援を行っている。	重度化した場合における(看取り)指針を作成しており、契約時に説明している。これまでに看取り支援の経験はあるものの、現在、体制が整っていないため、行っていない。医療行為を伴わない看取りについては、家族の希望により検討することとしている。状態の変化に応じて家族と主治医と話し合い、できる限りの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成している。 定期的に研修を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に火災や地震・水害等の避難訓練を行っている。 隣接する老健施設にも参加してもらっている。	年2回、消防署立会いの下、夜間想定総合火災訓練を実施し、併せて土砂災害避難訓練も行っている。また、毎月自主訓練を行い、職員は行動を身につけている。火災を未然に防ぐため、毎日点検を行っている。隣接法人施設と双方向での協力体制があり、備蓄を整備している。ただし、非常時持ち出し品については検討の余地がある。	入居者の命を預かる事業所として、非常時においても各入居者が困らないように本人とわかる情報を集約したものの準備等、検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りやスタッフ会議等で定期的に言葉づかいや対応について話し合いを行っている。 接遇についての研修も実施している。	入居者は苗字にさん付けを基本としている。入浴時の脱衣支援ではタオルを掛けると共に、トイレ誘導も一人ずつ行うなど羞恥心に配慮した支援に努めていることが見てとれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が欲しい物や食べたい物等、希望を聞き対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれのペースを大切にしながら、起床時間や入浴などそれぞれのペース希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるよう、本人の希望に合わせており、愛用品を使用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、豆のすじとり等出来ることを一緒にしていただいたり、テーブル拭き等も手伝ってもらっている。	食事は職員が交代で調理しており、毎日冷蔵庫の食材を見て献立を決めている。入居者の希望を反映して手のひら団子と一緒に作り楽しい時間となっている。入居者の嗜好やアレルギー等は把握しており、除去し代替食を提供している。母の日に女性の希望を聞いてサンドウィッチを作り好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行っている。 入居者の咀嚼・飲み込みの状態に応じておかゆやキザミ食での対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや臭いが生じないよう、毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ必要に応じて、声掛けや排泄介助を行っている。 会議で支援内容を検討している。	一人ひとりの排泄状況はチェック表に記入し、定期的に誘導している。夜間帯にポータブルトイレを使用する入居者も日中はトイレでの排泄を職員が支援している。また、リハビリパンツやパッドのサイズは本人に合うものを検討しており、布パンツで過ごす入居者もいるなど、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やすとろくみや、運動・腹部マッサージ等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望にあわせて入浴日を変更したり順番をかえたりしている。	毎日、入浴準備を行い、一日置きに入浴を支援している。入浴拒否の場合は、職員が交代したり、時間を置いて声掛けしている。本人の好みに合わせて、コンディショナー等を使用したり、冬場は入浴剤、端午の節句は菖蒲湯、冬至はゆず湯を提供している。入居者と1対1になれる時間であり、職員は昔話を聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をしたり、居室でテレビやラジオをきいたり本人の希望に沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があるときは介護記録・申し送りノートに記入し全員が理解できるようにしている。 症状の変化も記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の手伝い、洗濯物たたみ等の役割、本人の好む飲食物の提供、歌をうたいたい等のそれぞれの入居者にあわせた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外散歩を行い、花を見にドライブすることもある。	天気がいい日は、敷地内の散歩を支援している他、中庭の花を見物に行く入居者もいる。季節ごとの花見は新型コロナ禍も継続しており、入居者の楽しみとなっている。以前は、編物が趣味の入居者は毛糸の購入に出掛けたり、家族の送迎で美容室に出掛ける入居者もあり、収束後には再開予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望や能力に応じて、お金を所持している入居者もいる。 また、欲しい物を職員に依頼する方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の支援をしたり、届いた手紙を本人に読んで伝えたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体が窓が多く明るい雰囲気でも広さも充分あり、ゆったり過ごせるようになっている。 回廊式の廊下があり園内散歩も行えている。	リビングや廊下は採光がよく、開放感がある。ソファで時代劇に熱中する人達や車椅子自走で自由に移動している人、中庭の季節の植物を眺めながら歩行する人等入居者は思い思いに過ごしている。職員が毎日掃除と室温管理し、来訪者への消毒と手洗い、うがいの徹底など感染予防対策も行っており、清潔で快適な共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く置いていて、好きな所に座って過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やラジオ、テレビ、本等、本人の好むものを持ち込んで落ちついて過ごせるよう家族に協力してもらっている。	持ち込み品に制限はなく自由に飾っている。全居室に洗面台を設置しており、気兼ねなく身嗜みを整えることができる。起床後は布団をたたみ、押入れに仕舞っており、これまでの習慣を大切にしていることがわかる。ポータブルトイレは目隠しの配慮があり、職員による清掃と空調管理により居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札をつけている。 それでもわからない入居者には大きく見えるように名前を貼ったことで居室がわかるようになっている。 施設全体に手すりがあり安全性が保たれている。		